

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年12月3日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2774500835
法人名	社会福祉法人 アムリタ
事業所名	グループホームアムリタ
所在地	泉佐野市長滝842番地1 (電話) 072-466-6111

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 11月 21日

【情報提供票より】(平成 20年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算	7.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4階建ての	3階 ~	3階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	15,000円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要 (平成 20年 10月 1日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	1名	要介護2	1名
要介護3	6名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 88.8歳	最低 79歳	最高 97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人栄公会 佐野記念病院、岸村歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人が経営する複合施設でデイサービス、特別養護老人ホーム、生活支援ハウス、ヘルパーステーションが併設されています。また建物の1階には付属診療所も併設されているため、医師や看護師との医療的な連携が取れており、日常はもちろん緊急時のサポートが得られ利用者、家族も安心感を持っています。グループホームは建物の3階部分で、吹き抜けや広いテラスがあって開放的です。家庭的な雰囲気作りをモットーに職員全員が理念を念頭に置き「ここに来てよかった」「ここは楽しいよ」という利用者の声を聞けるようにと日々の支援に積極的に取り組んでいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	外部評価結果は職員全員で内容を確認し、サービスの質の向上に努めています。前回、常時流されている有線放送が気になると示され、必要の有無を職員間で話し合い、必要に応じてスイッチを入れることにしています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を職員全員に配り、全員が自分達の課題として書き込み、その結果を持ち寄って、月1回開催されるグループホーム会議で意見交換をしながら集約しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2カ月に1回開催され、利用者、家族、市職員、地域包括支援センター、民生委員、職員が参加し外部評価の内容や説明を行っています。また地域での交流が進むよう情報提供を受け、サービスの向上に活かしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	法人が発行する「アムリタ新聞」は3カ月に1回、「グループホーム新聞」は1カ月に1回発行され、行事や新任職員の紹介、ホームでの暮らしぶりなどについて報告しています。身体状況に変化がある場合はその都度電話などで連絡しています。金銭管理については、個人の金銭出納帳に記載し、概ね月1回、家族の訪問時に内容の確認をしてもらい署名、捺印を得ています。家族等からは積極的に意見や要望を伝えてもらえる機会を作り、出された意見、要望はできる限り職員を含め検討し、反映できるようにしています。また利用者からの苦情等は年間事業報告書に苦情の内容や件数を記載し公表しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の秋祭りでは「だんじり」の宮入見物や地域の運動会、交流サロンへの参加もしています。数名の利用者は「朝の見守り掃除」に参加しており、地域の人や小学生との交流が図られ、夏休みなどは毎日のように子どもたちがホームに訪れるようになってきました。毎年10月に行われている「アムリタ祭」ではバザーや喫茶コーナーを設け、地域の方が参加し交流する機会があります。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気」「居心地のいい空間」「その人の可能性を見出そう」「地域でイキイキ」をホーム開設時に職員と共に考え、ホーム独自の理念として掲げています。いつでも目に付くようホーム内に掲示しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念の内容理解に努め、理念に基づいた実践ができるよう日々のケアの中で取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	「朝の見守り掃除」に参加し地域の人や小学生との関わりにより、夏休みなどは毎日のように子どもたちがホームに訪れています。毎年10月に行われている「アムリタ祭」ではバザーや喫茶コーナーを設け、地域の方が参加し交流する機会があります。また地域の運動会、交流サロンへの参加もしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果は職員全員で内容を確認し、改善事項については意見を出し合い、サービスの質の向上に努めています。また自己評価を職員全員で取り組み、その結果を管理者がまとめています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回開催され、利用者、家族、地域包括支援センター職員、市職員、民生委員、職員が参加し外部評価の内容や説明を行っています。また情報交換を積極的に行いサービスの向上に活かしています。運営推進会議の開催により、地域からの情報交換や交流につながっています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当課や地域包括支援センターとは日常的に相談を行うなど連携が取れています。地域包括支援センターが実施する認知症研修会で協力を要請されるなど、市などと積極的な交流があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人が発行する「アムリタ新聞」は3カ月に1回、「グループホーム新聞」は1カ月に1回発行し、行事や新任職員の紹介、ホームでの暮らしぶりなどについて報告しています。身体状況に変化がある場合はその都度、家族等へ電話などで連絡しています。金銭管理については、預かり金の出し入れを個人の金銭出納帳に記載し、概ね月1回、家族の訪問時に内容の確認と署名、捺印を得ています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からは積極的に意見や要望を伝えてもらえる機会を作り、出された意見や要望はできる限り職員を含めて検討し、反映できるようにしています。また利用者からの苦情等は、年間事業報告書に苦情の内容や件数を記載し公表しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今春に職員の異動がありましたが、利用者の不安やダメージを極力最小限にするため、新任職員への引き継ぎを徐々に行われました。1ヵ月間は、先輩職員が同行して業務を行うようにしています。利用者が遠慮して自分の思いを言えないことへのストレスがないよう配慮しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	奇数月の年間6回、法人全体の研修があり職員は定期的に研修を受ける機会が確保されています。外部研修のお知らせなどは職員に知らせ、参加希望者は勤務調整を行いできる限り参加できるよう配慮しています。外部研修参加者は月1回の全体会議で報告し共有化を図っています。新任研修を行っていますが、記録が確認できませんでした。	○	次へのステップアップとして新任研修計画を作成し、実施後は記録を残すことが求められます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、他事業所と情報交換を行っています。また同市10箇所のグループホーム同士で交換実習を行い、交流を持つことによりさらなる質の向上に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や利用者自身も見学を訪れ、その際に少しの時間でも、他の利用者の中に入りその場の雰囲気に徐々に馴染んでもらえるよう工夫しています。入居前には自宅訪問も行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	料理の得意だった利用者から料理の下ごしらえの仕方を聞き教えてもらったり、雑巾の縫い方を教わったりしています。職員も利用者から学び、支えあって和やかに生活を送っていきける環境作りに努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望を把握するため、できるだけ利用者一人ひとりに触れ合う時間を作っています。年に1回希望に添った個別外出支援を計画し、昔住んでいた場所に行き友人と会う利用者、お墓参りに行く利用者もいます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は情報収集されたアセスメントをもとに現場の職員とカンファレンスを持ち、話し合っ作成に取り組んでいます。介護計画書は本人、家族に説明しサイン、捺印を得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月に1回の見直しを行っており、家族の訪問時には家族からも見直しに必要な情報を得ており、また必要に応じて見直し作成を行っています。見直し毎に職員とのカンファレンスを行っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望や状況に応じて予定外や緊急な通院などに臨機応変な対応をしています。また地域包括支援センターが主催する地域住民向けの「認知症講座」にも積極的に協力し、講座の講師なども務めています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特養付属診療所との連携により、利用者の安心した生活を確保しています。入居以前からかかりつけの医師に、現在も月1回通院されている方もいます。状態の急変や緊急時などは特養の看護師やかかりつけ医である付属病院の院長に連絡がとれる体制作りができており、指示を仰いでいます。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときは併設の特養へ、終末期は病院へなどの方針を定め、入居時に家族へ説明を行い、了解を得ています。また職員全体が方針を共有しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時には個人情報に基づいた秘密保持の誓約書を交わしています。2ヵ月に1回行われる個人情報会議ではプライバシー保護や個人情報保護について検討し、職員にも周知徹底しています。利用者の個別ファイルなどは鍵付きの書庫に保管し、個人情報の取扱いに留意しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、できるだけ利用者一人ひとりの個別性を大切にし、希望に沿った過ごし方を支援しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特養の厨房から食材が運ばれ、利用者と職員と一緒に材料を切ったりしながら食事準備を楽しんでいます。遠足、食事会やクリスマス会などの年4～5回行事の際は、利用者と食事メニューを検討しています。おやつは利用者と共に買出しへ出かけています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・火・木・金の週4日を入浴日として設定していますが、希望があればいつでも入浴できる体制はあります。しかし現状では1週間に2回が基本となっています。	○	週4日入浴日がありますが、入浴を希望しない利用者が多く、記録ではほとんどの方が週2回の入浴となっています。今後はさらに声かけや工夫により、週3回入浴ができるよう取り組むことが求められます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸が好きな利用者は花の水やりを日課とし、洗濯干しや洗濯たたみ、床磨き、食器洗い、食器拭きなど利用者から声をかけ手伝ってくれることが日常でそれぞれが積極的に活躍できる場面が多く見られました。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	今のところ外出や散歩を希望する利用者は少ないようですが、希望や意向に沿っていつでも外出できるよう支援しています。また職員から声をかけテラスに出て外気に触れる機会を作るよう配慮しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームのある3階フロアのエレベーターには電子ロックがされています。しかし、暗証番号を貼り出し、利用者でも扱えるようになっています。外出しそうな様子を察知し、さりげなく声かけを行い、一緒についていくなど見守り支援を行っています。玄関は日中開錠し、自由に出入りすることができます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成し、年に2回防災訓練を行っています。泉佐野市主催の総合防災訓練にも参加しています。また2～3日分の災害時の非常食などを備えています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設特養の栄養士がカロリー計算し、食事の栄養バランスを考えた食事を提供しています。1日の食事摂取量や水分量を記録し、職員は情報を共有しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は回廊のようになっており、利用者は自由に移動ができるようになっています。リビングや廊下に置かれた椅子は、利用者一人ひとりが思い思いにいつでもくつろげるようになっています。不快な音や光は特に感じませんでした。吹き抜けや広いテラスがあり、季節感や開放感を感じながら居心地良く過ごすことができるようになっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には洗面台が備え付けられ、ゆっくりとした広さの部屋です。また電動ベッドもホームが準備しています。その他は使い慣れたものや好みのものを自由に持ち込むことができます。書道などの作品を飾り、自分なりに居心地のよい居室にしている方もいます。		